

会報第 32 号発刊に寄せて

会 長 N.M

夏の暴力的な日射しが、寄り添いたくなるような柔らかい日射しに、席を譲ってくれました。ようやく、季節の移り変わりを実感できる時季となりました。私は、四季それぞれに、美があり感動がある国で生きられることに、感謝しています。秋には、「読書の秋」「スポーツの秋」等いろいろな形容詞がつけられます。皆さんは、何の秋を満喫しているのでしょうか。「食欲の秋」というのも良いものです。梨、柿、新米、甘藷等美味しいものが次々に店先に並びます。食欲の秋に浸って、トレーニングを疎かにしますと、春になってからの山行が厳しいものになりますので、ご注意下さい。

本クラブは、冬期を除いた季節に一般山行を計画しています。その多くが、春の新緑や山野草、夏の高山植物、秋の紅（黄）葉等を目指して計画されています。残念ながら天候の悪化等による中止もあります。それ以上に残念なのは、参加者が少なくて、バスを手配できない「経済的理由による中止」です。折角、幹事が多くの時間と無い知恵を絞って計画しても、参加者が少なく、参加費が高額になり過ぎると、幹事は中止を決断せざるを得ません。次年度以降、コース数が減少することは必定です。交通手段の選択、コース設定の工夫等でできるだけ多くの会員から参加してもらえらるような、中止しなくて済むような一般山行を計画することの必要性を感じています。幹事は皆さんと一緒に力を合わせて、少ない一般山行をできるだけ実施できるように頑張っていきたいと思っています。

信じられないことに、私も70歳となりました。おかげで時々忘れ物をするようになりました。山行時に有り勝ちなものは、皆さんの高級手袋、高級ストックです。本クラブの山行には必ずサブリーダーが付き添います。休憩後の出発時には、サブリーダーが忘れ物、落とし物を確認することになっています。が、しかしリーダー、サブリーダーも高齢化してきています。最後の確認を忘れることも、無いとは言い切れません。山では自己責任が原則です。苦勞を共にしてきた自分の分身を、山に置き去りにしないよう大切に扱いましょう。再度、買い求めることになると、少ない年金がより一層少なくなります。友達に忘れ物を教えてあげて、自分の物を忘れないようにしましょう。

本クラブは間もなく創立30周年を迎えようとしています。先輩たちの知恵と汗、時には涙で築かれてきた、歴史ある組織です。本クラブは、会員相互の仲間意識が強く醸成された団体だと思っています。旅行会社主催のツアーとは異なり、「親密さ」という空気感が濃く漂っています。本クラブの主催する行事に、一つでも多く参加することによって「私の新津ハイキング」が、一年でも長く存続できるよう、力を合わせて行きましょう。私達には、何歳になろうが、呆けている暇はないのです。

